

名 譽 会 員 の 推 挙

2月0日開催の理事会および評議員会の議決にもとづき、定款第8条の規定により、下記両氏を本会名誉会員に推挙することとなり、4月3日会長より推挙状および名誉会員章を両氏に贈呈いたしました。

W. F. CARTWRIGHT (英国鉄鋼視察団団長)

Sir CHARLES GOODEVE (英国鉄鋼視察団副団長)

日 本 鉄 鋼 協 会 役 員

さる4月3日開催の本会第48回通常総会において、理事、監事および評議員の選挙が行なわれ、また同日開催の理事会において副会長の互選が行なわれました結果、現在の本会役員はつぎの通りであります。(敬称略)

会 長	三島 徳七 (留任)								
副会長	伊木 常世 (新任)	武田 喜三 (新任)							
理 事	入 一二	川村 宏矣	村田 巖	安原 武彦 (以上留任)					
	奥村 虎雄	近藤 八三	田畑新太郎 (以上新任 任期1年)						
	植山 義久	小野 健二	河田 和美	佐藤 忠雄	雀部 高雄	長谷川正義			
	深堀 佐市	宮下格之助	山本 信公	吉崎 鴻造 (以上新任 任期2年)					
監 事	葦沢大義 (留任)	俵 信次 (新任)							
評議員	網谷 俊平	綾部 先	荒木 透	伊佐治勝利	石田 四郎	石原 正美			
	石原 善雄	井関 剛	伊藤 五朗	井戸崎好次	茨木 正雄	今井勇之進			
	井村 荒喜	岩井雄二郎	岩瀬 慶三	内川 悟	太田 久男	大元 博			
	岡田 知彦	荻野 一	奥村 福次	小田原大造	小野 清造	小野田武夫			
	金森 九郎	川本 勇	菊田多利男	北川 一栄	木下 茂	桑田 賢二			
	五弓 勇雄	小平 俊雄	小林佐三郎	西郷 吉郎	佐野 幸吉	芝崎 邦夫			
	清水 芳夫	志村清次郎	水津 利輔	菅野 猛	園田 一夫	高尾善一郎			
	武田 修三	田中 国雄	谷口 光平	谷村 瀨	出淵 国保	中島 省一			
	中野 宏	中安 閑一	中山 育雄	西村吉太郎	野島福太郎	橋本 宇一			
	藤川 一秋	藤木 俊三	堀田 秀次	堀田 之孝	松永陽之助	松原与三松			
	三井 太倍	宮代 彰	毛利 定男	森 暁	森棟 隆弘	八木貞之助			
	柳 武	湯川 正夫	吉井 周雄	和田 亀吉 (以上留任)					

評議員	石田 退三	市川 忍	今里 広記	越後 正一	太田 鶏一	岡本 正三	
	香川 進	香川 英史	金森 祥一	河合 良成	喜代永政雄	岸本吉左衛門	
	楠木 直道	駒井健一郎	佐藤 知雄	桜井 三郎	三本木貢治	鹿喰 清一	
	莊 清彦	曾我野秀雄	田地川健一	田村純治郎	高橋麟太郎	滝口 征夫	
	俵 隆治	辻畑 敬治	中川不器男	萩原 巖	橋浦 彦三	馬場幸一郎	
	原田 恵伍	藤井 深造	松田 公扶	松塚 清人	三谷 裕康	宮下 俊二	
	盛 利貞	森 一美	山本真之助	山本 博	養田 実	吉田 道一	
	吉村タキノ (以上新任 任期1年)						
	足立 彰	青 武雄	明石 和彦	秋田 武夫	浅田 譲	浅野檜一郎	
	井上 友善	井上 道雄	井村 竹市	伊藤 正夫	伊藤保次郎	石井健一郎	
	石田 稔	猪崎久太郎	稲田 辰男	稲山 嘉寛	上野建二郎	梅津 良之	
	遠藤勝治郎	小城 五郎	大河原正太郎	大谷 秀数	大谷米太郎	大野 嘉市	
	大原 久之	大森 基一	大矢根大器治	岡田 儀一	岡村 武	沖 豊治	
	香春三樹次	嘉村 平八	海江田弘也	門野 正二	桂 寛一郎	金田 義夫	
	川勝 一郎	河上 益夫	菊池 浩介	絹川武良司	草川 隆次	葛 誠四郎	
	黒田 隆之	小島 義正	幸田 成康	佐々川 清	佐藤武三郎	斎藤 省三	
	斎藤 弥平	酒井 佐敏	作井 誠太	里井孝三郎	志賀 芳雄	清水 荘平	
	島村 哲夫	梶山 正孝	関 文男	関 義長	芹沢 正雄	田中 勘七	
	多賀谷正義	高石 義雄	高瀬 孝夫	滝沢 工	谷川 正夫	津田 久	
塚本 清	外島 健吉	土光 敏夫	富山英太郎	名児耶 馨	南里 辰次		
丹羽貴知蔵	西 博	西野 武彦	西村 秀雄	西山弥太郎	錦織 清治		
橋口 隆吉	蜂谷 茂雄	浜田 正信	広田 寿一	平世 将一	不破 祐		
藤田 俊三	藤本 一郎	本田宗一郎	増本 量	的場 幸雄	町永 三郎		
松下 幸雄	松本兼二郎	松本 豊	三ヶ島秀雄	水島三一郎	水上 達三		
村尾時之助	室井嘉治馬	望月 要	森崎 晟	森田恵三郎	森田 志郎		
矢島悦次郎	矢野 雅雄	安田 勇治	山野上重喜	山内 二郎	山口 利彦		
山田良之助	横田 正成	横山金三郎	横山 均次	吉岡 正三	吉田 衛		
(以上新任 任期2年)							

第9回九州支部合同講演大会開催案内

本会九州支部では、日本金属学会、日本鋳業会各九州支部共催のもとに、下記の通り講演大会ならびに見学会を開催いたしますから多数ご参加下さいますようお願い申し上げます。

記

I. 講演会

日 時	場 所	演 題	講 演 者
昭和38年6月7日(金) 12°00'~16°25'			
大分県物産観光館……………(別府市流川通1丁目)			
1 (12°00'~12°05')		開会の辞	日本鉄鋼協会九州支部長 和田 亀吉 君
2 (12°05'~12°35')		溶融珪酸塩の特性	九州大学工学部 柳ヶ瀬 勉 君
3 (12°40'~13°10')		ビスマス—鉛—銀合金の溶融塩電解	日本鋳業(株)佐賀製鉄所 富成 熙 君
4 (13°15'~13°45')		電線、ケーブルの寿命について	西日本電線(株) 関 康雄 君
5 (14°00'~14°30')		高速度鋼の迅速簡易軟化法	熊本大学工学部 堀田 秀次 君
6 (14°35'~15°05')		高炉における重油吹込操業	住友金属工業(株)小倉製鉄所 安西 泰 君
7 (15°10'~15°40')		ラテライト鉍の処理	八幡製鉄(株)八幡製鉄所 小菅 高 君
8 (15°45'~16°15')		ラテライト鉍、ガーニエライト鉍等より Niの分離採取	九州工業大学 岡元 敬蔵 君
9 (16°20'~16°25')		閉会の辞	日本金属学会九州支部長 伊藤 尚 君

II. 見学会

集 合	見 学	日 時	場 所
昭和38年6月8日(土) 8°30' 別府駅前集合、出発(バス利用)			
	1) 日本鋳業株式会社佐賀製鉄所(佐賀関町)	10°00'~11°30' (中食)	12°30' 発
	2) 大分、鶴崎臨海工業地帯	13°20'~13,40	
	3) 西日本電線株式会社(同業者おことわり)	14°00'~15°00'	
		15°30'	別府駅前解散予定

見学会費 100円(中食費)

III. 申込要領

5月28日(火)までに勤務先、職名、氏名、講演会出欠見学会出欠、明記のうえ北九州市八幡区枝光町1の1八幡製鉄所技術研究所内日本鉄鋼協会九州支部あてお申込下さい。参加費は不要。見学会費は100円。

IV. 宿 舎

各自でお手配下さい。

第6回自動制御連合講演会講演募集

- 主催学協会** 計測自動制御学会，中部自動制御研究会，日本機械学会，日本自動制御協会，日本繊維機械学会
- 参加学協会** 日本鉄鋼協会，応用物理学会，化学工学協会，計装研究会，電気学会，電気通信学会
- 幹事学会** 計測自動制御学会（東京都港区芝罘平町20 計測会館内 TEL(502)1917）
- 講演開催期日** 昭和38年10月9日(水)，10日(木)，11日(金)の予定
- 講演会場** 東京工業大学（東京都目黒区大岡山1）
- 講演申込** ① 講演希望者は所属の主催または参加学協会を通じて指定の申込用紙により申込みこと。
② 講演内容は発表されたものでもさしつかえないが，なるべく最近の研究で学術的なものであること。
③ 講演時間は約20分（討論を含む）の予定。
④ 講演の採否，分類などは幹事学会に一任願います。
⑤ 申込用紙は幹事学会に請求して下さい。
- 部 門** 第1部 自動制御理論，第2部 自動制御要素，第3部 自動制御の各種工業への応用，第4部 計測
- 講演申込締切期日** 7月20日（所属学協会必着）
- 講演前刷** オフセット印刷といたしますので，原稿用紙および書き方の詳細は幹事学会から送付いたします。前刷原稿は8月20日（必着）までに直接計測自動制御学会へご提出下さい。

第6回高温強度シンポジウム講演募集

主 催 日本材料試験協会・日本鉄鋼協会ほか4学協会共催

今秋東京において下記のとおり第6回「高温強度シンポジウム」を開催することになりました。耐熱材料およびその強度の問題は，最近とくにその研究が要望されており，この方面にご関係の諸氏は奮って講演お申込みください。なお，本シンポジウムでの講演内容は，すでに発表したものでも差支えありませんが，なるべく最近の研究に属するものを希望します。

記

- 開催日** 昭和38年10月8日(火)，9日(水)
- 場 所** 東京都内の予定（会場は決定次第お知らせします）
- 申込締切** 7月20日(土)
- 前刷原稿提出締切** 8月31日(土)
- 申込方法** 適当な用紙に下記事項を記入のうえお申し込み下さい。
1. 第6回高温強度シンポジウム講演申込と表記，2. 演題，3. 講演概要，4. 講演部門名，5. スライド使用の有無，6. 講演者ならびに連名者の氏名，勤務先，通信先明記（講演者には○印をつけること）。
ただし講演所要時間は1題目40分（講演20分，討論20分）の予定です。
- 申込および問合せ先** 日本材料試験協会シンポジウム係宛
（京都市左京区吉田本町 京都大学工学研究所内 電話(77)1912番）
- 前刷原稿** 本シンポジウムには前刷を作成いたします。
前刷は謄写印刷とし，講演採択者に日本材料試験協会よりお送りする指定原稿用紙約10枚（図表を含めて約5500字）に前刷原稿を作成し8月31日(土)までにご送付下さい。